

2023年度 法科大学院

第2期入学試験問題

3時限

刑法

(論文式)

試験時間 50分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[刑法]

次の事例における甲の罪責について論じなさい。

【事例】

- 1 A教授は、H大学工学部4年で音響学（音が脳に与える効果を研究する学問）のゼミを担当していた。ゼミ生は20名程度であり、Bが幹事長であり、甲はゼミ生であった。同ゼミでは、令和4年3月25日に居酒屋で卒業コンパが開かれることになり、甲は、A教授とB幹事長にプレゼントを購入・手渡しする担当となった。甲は、日頃から遅刻しがちなA教授に目覚まし時計、B幹事長にはワインを購入した。
- 2 甲は、A教授に悪い成績を付けられたことを恨みに感じ、A教授にイタズラして脅かしてやろうと思い、目覚まし時計が翌3月26日午前2時になると15分間止まらなくなるように細工（通常の日覚まし時計の音量より大きく鳴り意識朦朧たる気分させる暴行の程度）をした。また、甲は、B幹事長には日頃から「脳なし」等と罵倒されていたため、B幹事長を殺害しようと考えて、ワインに致死量の毒物を注入した。
- 3 3月25日コンパ当日、甲は、A教授及びB幹事長へのプレゼント渡し役を担当した。甲は、両プレゼントの包装紙等の外見が全く同一であるため、間違えて、A教授に毒入りワインを渡し、B幹事長には細工した目覚まし時計を渡してしまった。甲は、A教授とB幹事長に間違えてプレゼントを渡したことは全く気付かなかった。
- 4 A教授は、電車で自宅に帰る途中に、毒入りワインを網棚の上に忘れてきてしまった。一方、B幹事長は、アパートに帰ると、プレゼント（目覚まし時計）を枕元に置き、布団に入って、すぐに眠り込んでしまった。26日午前2時、B幹事長が持ち帰った目覚まし時計は15分間すさまじい大音量で鳴り続けた。目覚まし時計が大音量で鳴ったのは、甲の細工にミスがあったためであった（その大音量は、人の鼓膜が破れるなど生理的機能に害する傷害の程度であった）。
- 5 B幹事長は、生まれつき心臓が弱く、本件程度の大音量を継続的に一定時間聞くなどのような大きなショックを受けると心臓が止まり、死に至る持病があった。目覚まし時計がすさまじい大音量で鳴り始めた5分後に、B幹事長の心臓が止まり、死亡してしまった。なお、目覚まし時計が、通常の日覚まし時計より大きく鳴り意識朦朧たる気分させる程度であった場合には、B幹事長が死亡することはなかった。また、B幹事長にそのような持病があることは本事件後に判明したものであり、甲はB幹事長の持病を知り得なかった。